第１学年１組国語科学習指導案

令和５年１１月２１日（火）第５校時
児童数２５名　　１年１組教室
指導者　　早川　雄飛

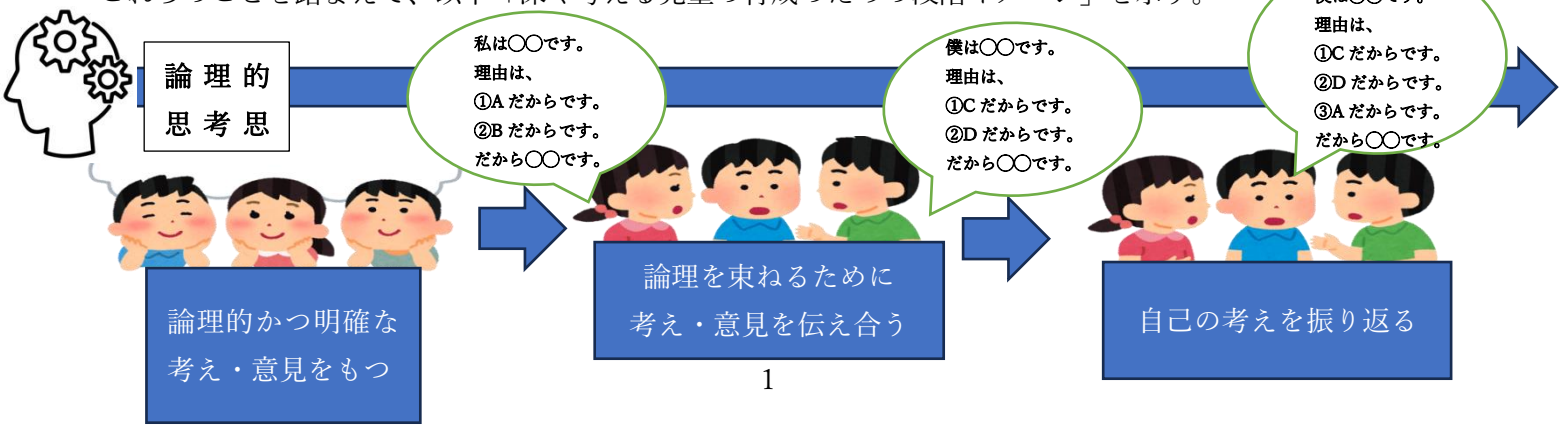
１　単元名・教材名　せつめいする文しょうをよもう・「じどう車くらべ」（１２時間扱い）
２　研究主題との関わり
（１）研究主題
「多様な学びを生かした新しい学習活動の創造」
～聞き合い、伝え合い、深く考える児童を目指して～

前年度に「聞き合い、伝え合い」という副題に焦点を置いて研修を進めた。前年度の研修を通じて、本年度は「深く考える」という副題に焦点を当てて研修を進めていく。

「深く考える」とはどういうことか低学年ブロックで協議した。その結果、「深く考える」とは「単元や１時間の授業の中で自分の考えや意見をもち、発表・発言する場面や機会を多く設定するとともに、その根拠を見つける活動を通して、自分の考えとその根拠を伝える力を育むこと」であると定義した。このことから、深く考える児童の育成には次の段階があると考える。

また、光野公司郎氏によると「『聞き合い、伝え合い』＝対話的で深い学びの姿＝他者と協働して深く（豊かに）考える」とのことである。つまり、「聞き合い、伝え合う」という学習活動が「深く考える」ことにつながるということである。しかし、ここで注意しなければいけないのが、ただ「聞き合い、伝え合う」のでは意味がないということだ。「聞き合い、伝え合う」という言語活動を「深く考える」ことにつなげるには、前段階に、児童が明確な考え、意見をもつとともに、論理的思考力を身につけている必要がある。また、「聞き合い、伝え合う」際に、「何のために聞き合い、伝え合うのか。」という言語活動のねらいと、「どのように聞き合い、伝え合うのか。」という言語活動の方法を児童が理解していることも必要である。そして、それらの言語活動を通して、自己の考えがより洗練されたり、根拠が強まったりしたことを、振り返りなどを通して実感させる必要がある。

これらのことを踏まえて、以下「深く考える児童の育成のための段階イメージ」を示す。



（２）仮説と手立て

仮説１　児童が見通しをもてる課題を創造し、論理的な思考を引き出す発問をすることで、児童は深く考えることができるだろう。

【手立て①】　単元を貫く学習課題の創造

・児童が論理的思考を必要とする学習活動を教師が創造し設定する。

【手立て②】　発問の工夫

・授業や単元の中で、時間（いつ？）・空間（どこ？）・論理（順番は？どうして？）を意識した発問をしていく。

仮説２　論理的思考に触れる機会を多く設定すれば、児童は深く考えることができるだろう。

【手立て①】　スモールトーク

・授業や単元の中に簡単な話題で児童同士が話し合う時間を設ける。安心して自分の考えを伝え合える学習環境を醸成する。

【手立て②】　国語コーナーの設置

・これまで扱った説明文の論理構造を明確にした資料を教室内に掲示することで、児童が学習中や生活の中で論理的思考について振り返れるようにする。

３　単元の目標

（１）事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができるようにする。

【知識及び技能】（２）ア

（２）事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】Ｃ（１）ア

（３）自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】（２）Ｂイ

（４）言葉が持つ良さを感じ取るとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【学びに向かう力，人間性等】

４　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(２)ア）	①「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。（Ｃ（１）ア） ②「書くこと」において、事柄の順序を考えながら簡単な構成を考えている。（Ｂ（１）イ）	進んで文章を読み、説明における順序の重要性を知ることで、自分が説明するときに生かしたいことを見つけようとすることができる。

５　単元について

（１）児童の実態

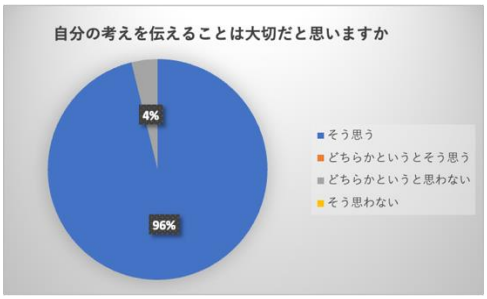
【既習単元での実態】

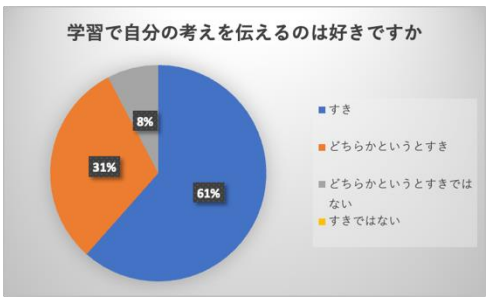
本学級では１学期に、教材文「くちばし」で、説明的な文章には「問い」と「答え」があることを学習した。

児童は「問い」と「答え」を意識しながら、内容を読み進め、学習したことを生かして「くちばしブック」作りに取り組んだ。その際に、資料から取り出したくちばしの「つくり」や「はたらき」について、事柄の順序を考えて並べることが難しい児童がいた。

また「海のかくれんぼ」では、海の生き物について「何が」「どこに」「どのように」かくれていると説明されている文章を読み、事柄の順序に気を付けて内容を捉えることを学んだ。その際に「海のかくれんぼ図鑑」を作成する中で、事柄を順序立てて、他者に伝える経験をした。

【聞き合う、伝え合うことに関する調査結果】





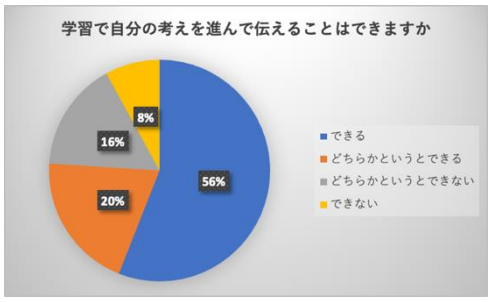


図１より「自分の考えを伝えることは大切だと思いますか」という調査では、２６人中２５人が「そう思う」と回答した。図２より「学習で自分の考えを伝えるのは好きですか」という調査では、２６人中１６人が「好き」と回答した。図３より「学習で自分の考えを進んで伝えることはできますか」という調査では、２６人中１４人が「できる」と回答した。また図３より「学習で自分の考えを進んで伝えることはできますか」という調査では、「どちらかというとできない」「できない」と回答した児童が２６人中６人いた。

これらの調査から、自分の考えを伝えることが大切だと思い、ある程度好きではあるが、それをできるとはなかなか思えないということが分かった。このことを踏まえて、本単元では、発表することだけが「自分の考えを伝える」というわけではなく、自分の考えに基づいて、何かを作ったり、書いたりすることも「自分の考えを伝える」ことだと実感させたい。また、他者に自分の考えをアウトプットする機会を多く設定することで、自分の考えを進んで伝えることができていることも実感させたい。

（２）教材観

本単元は、第１学年及び第２学年「C 読むこと」の内容（１）である。

本教材の特性は以下の２つだと考える。

①３種類の自動車を事例として取り上げ、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を取り上げた説明的な文章である。児童がよく知っている自動車から特殊な自動車の順に説明されており、児童が自動車を比べながら、興味を持って学習に取り組める教材であると言える。

②自動車についての話題に始まり、問いがあり、それに対する答えを３つの自動車の具体例に沿って説明している。２つの「問い」と「答え」が並んだ列挙型の構成となっている。「答え」の内容は「（１）その自動車のしごと→（２）そのしごとに応じたつくり→（３）（２）のつくりを補助するつくり」の順に説明されている。「つくり」は、「しごと」の内容に関わりの深いものから説明されており、「しごと」と「つくり」のつながりを示すために「そのために」という接続語が使われている。３つの事例は、類似的に説明されているため、説明の順序の共通点を見つけやすく、事柄の順序を捉える力を育むのに適した教材である。

以上の特性を生かし、本単元では、事柄の順序を理解し、自分の好きな自動車の「しごと」と「つくり」について書く「じどう車はかせになってずかんをつくろう」という学習活動を設定した。

（3）指導観

本単元では、以下の点に留意して指導を展開する。

①事柄の順序など情報と情報を理解するために、「しごと」と「つくり」を色分けする活動を設定する。また、その際に「◯◯はどんなしごとをしていますか？赤色で線を塗りましょう。」という具体的で簡単な発問・指示から、「◯◯の「しごと」と「つくり」を色分けしなさい。」という抽象的で難易度の高い発問・指示へと展開していくことで、児童が本教材「じどう車くらべ」の論理構造を意識できるようにしたい。

②単元を通して「じどう車はかせになって、じどう車ずかんをつくろう」という言語活動を設定する。ここでいう「じどう車はかせ」とは「自動車の働きについて「しごと」と「つくり」の順序で説明している者」「根拠をもって図鑑にのせる自動車の順番を考えている者」と設定する。そうすることで、本教材を読む際に、事柄の順序を考えながら読むことができるのではないかと考える。

③本単元のゴールは「じどう車はかせになって、じどう車ずかんをつくろう」である。このことを単元の始めに児童に伝える。そうすることで、児童は学習に対して見通しと、必要感をもって取り組むことができるであろう。また、学習の中で見つけたことを「図鑑づくりに使えそうだね。」などと価値づけることで、主体的に学習に取り組むことができると考える。

6　単元の指導計画・評価計画

時	学習のめあて	学習活動	評価の観点			評価規準（評価方法）
			知	思	主	
1	ずかんにのせたいじどう車をえらび、がくしゅうのけいかくをかくにんしよう。	1 教師からの「身の回りの物クイズ」に答え、学習への興味を持つ。 2 知っている車の名前を挙げる。 3 自分たちがじどう車はかせになって、じどう車ずかんを作ることを知る。 4 教師の範読を聞く。 5 課題を達成するための学習計画を知る。 6 自分が図鑑に載せたい車を選ぶ。			○	自動車について知っていることを話したり、聞いたりして図鑑作りに関心をもっている。 （行動観察）
2	「じどう車くらべ」を「とい」と「こたえ」のページにわけよう。	1 本時の課題を確認する。 2 音読をする。 3 「問い」と「答え」のページに分ける。 4 「問い」で聞かれていることを確認する。 5 次の時間から「答え」の中身を確認していくことを知る。	○			「問い」と「答え」の部分に正しく分けることができている。 （教科書への書き込み）
3	それぞれのじどう車は、どんな「しごと」をしているのか知ろう。	1 本時の課題を確認する。 2 音読をする。 3 どのような仕事をしているか予想する。 4 「しごと」赤と「つくり」青を色分けしていく。 5 色分けして気づいたことを伝え合う。	○			それぞれの自動車の「しごと」が書かれている文に線を引けている。 （教科書への書き込み）
4	バスやじょうよう車の「つくり」をしって、	1 本時の課題を確認する。 2 音読をする。 3 バスや乗用車の「つくり」について確	◎			バスや乗用車の「つくり」が書かれている文に線が

	ずかんをつくろう。	認する。 4「そのために」が文と文をつなげていることを知る。 5バスと乗用車の図鑑を作る。				引けている。 （教科書への書き込み）
5	トラックの「つくり」をしって、ずかんをつくろう。	1本時の課題を確認する。 2音読をする。 3トラックの「つくり」について確認する。 4「そのために」が文と文をつなげていることを確認する。 5トラックの図鑑を作る。	○			トラックの「つくり」が書かれている文に線が引けている。 （教科書への書き込み）
6	クレーン車の「つくり」をしって、ずかんをつくろう。	1本時の課題を確認する。 2音読をする。 3クレーン車の「つくり」について確認する。 4他のつくりについて考える。 5クレーン車の図鑑を作る。		○		クレーン車の「しごと」を踏まえたつくりについて考えたり、選んだりしている。 （発言・ワークシート）
7	はしご車の「しごと」と「つくり」をかんがえて、ずかんをつくろう。	1前時までの説明文の構造を振り返り、課題を確認する。 2はしご車の「しごと」をみる。 3はしご車の「しごと」に合った「つくり」を考える。 4板書から「しごと」と「つくり」を選んで、はしご車の図鑑を作る。		○		「しごと」と「つくり」の関連性や順序性に気づき、自分の図鑑作りに活用している。 （ワークシート）
8 9	じぶんがえらんだじどう車のずかんをつくろう。	1課題を確認する。 2書く内容の順番を確認する。 3「しごと」「つくり」で文章を考える。 4班で校正する。 5校正したことをもとに、図鑑を仕上げる。	○			事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、繋がりのある文章を書いている。 （ワークシート）
⑩	わかりやすいじどう車ずかんをかんせいさせよう。	1課題を確認する。 2教師がもってきた自動車が図鑑のどのページになるか考える。 3自分が選んだ自動車が図鑑のどのページになるか考える。 4どうしてその順序にしたのか説明する。		○		自分が作った図鑑の順序について、根拠を説明している。 （発言・ワークシート）
11 12	じどう車ずかんのけんきゅうはっぴょうかいをしよう。	1課題を確認する。 2図鑑を見せながら学級の仲間に自分が選んだ自動車について発表する。 3感想を発表する。 4単元の振り返りをする。			○	事柄の順序を意識して説明することの大切さを振り返っている。 （ワークシート）

7　本時の指導（１０/１２）

（1）目標

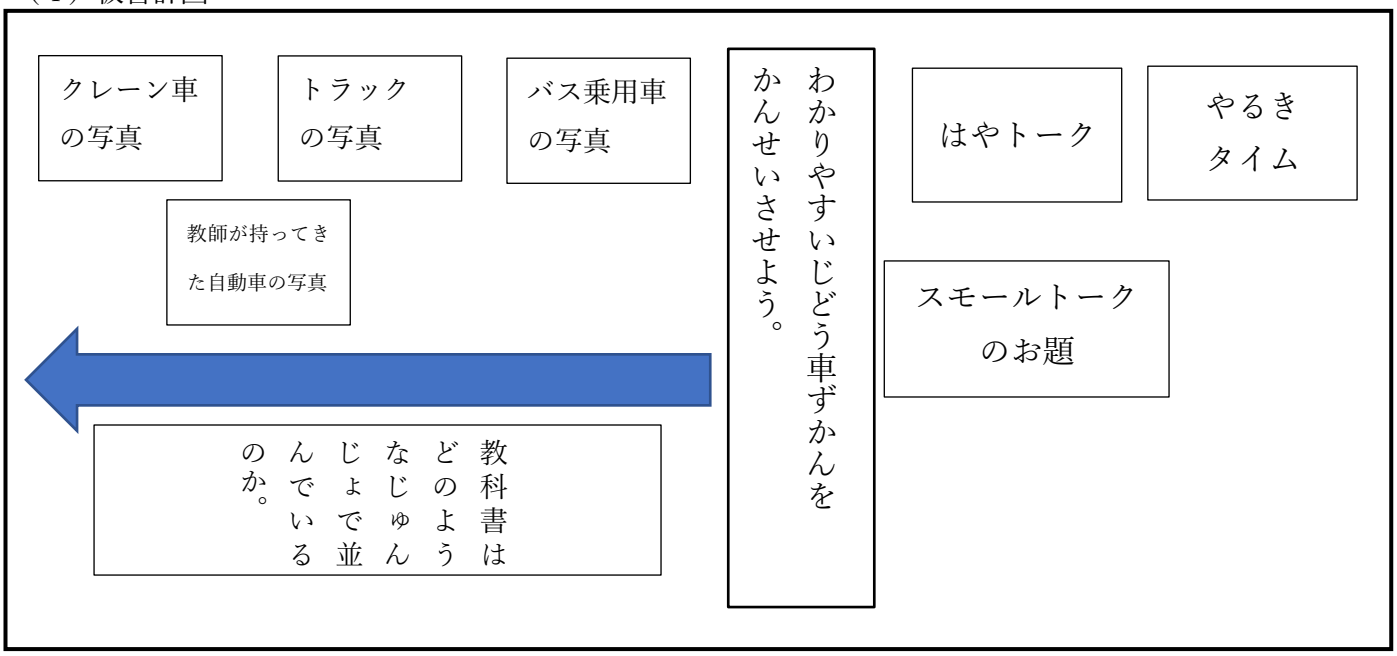
自分が作った図鑑の順序について、根拠をもって説明することができる。

（2）評価規準

自分が作った図鑑の順序について、根拠を説明している。【思考・判断・表現】

（3）展開

学習活動	◯学習内容	・指導上の留意点・評価	時間
1 暗唱をする。		・児童が国語の学習にスムーズに入れるように、テンポよく行う。	3
2 スモールトークをする。		・児童が自分の考えを友達に伝えやすいように、児童にとって身近なテーマを設定する。	5
3 めあてを確認する。	わかりやすいじどう車ずかんをかんせいさせよう。	・児童が見通しを持って意欲的に取り組めるように、めあてを提示する。	3
4 図鑑の順序について考える。	◯分かりやすい図鑑の順序	・児童が次の学習活動に円滑に取り組めるように、選んだ順序の根拠を板書に残しておく。	7
5 自分が作った図鑑を並び換えて「じどう車ずかん」を完成させる。	◯分かりやすい図鑑	・児童が事柄の順序性を意識できるように、机間支援の中でどうしてその順序にしたのか問いかける。 ・児童が図鑑の順序の説明を考えやすいように、4 の学習活動で出た順序の根拠を振り返らせる。	7
6 図鑑の説明をする。	◯根拠立てた図鑑の説明の仕方	・児童が友達の説明を真剣に聞けるように、「友達の図鑑について自分が説明できるように聞く」ことを伝える。 〈評価規準〉 【思考・判断・表現】 （評価方法）発言・ワークシート （C）の児童への手立て ・説明が考えられない児童には、4 の活動を振り返らせたり、教師や友達の真似をさせたりする。 ・説明が言えない児童には、書いてあることをそのまま言わせたり、教師の後について言わせたりする。 （A）の児童の姿 ・自分の図鑑の順序について説明できるとともに、友達の図鑑の順序についても簡単に説明することができる。	15

７本時の振り返りをする。		・児童が次時に意欲をもてるように、振り返りの後、教師が研究発表のお手本を見せる。	5

（４）板書計画